江戸時代の旅に関する文書を読む

史料　文化九申年　道中記　（会田家文書No.１５０６）

山本大夫江着、守屋七郎江面談
致度旨、用人山本喜兵衛江申談、
守屋七郎ハ青柳江年々配札之
手代、翌十八日てんきよし、二見が
浦参詣、翌十九日てんきよし、
太々御神楽奉納、両宮参宮
無滞相済、
廿日山本大夫出立、アサマが嶽
虚空蔵参詣、同前茶屋内宮や
泊り
廿一日アサマが嶽出立、磯邊(辺)江行、
登下り之坂有り、民家無之五拾丁
程行、ゴチ村民家有り、其村ハヅレ
茶店有り、次ニ二瀬川を渡り、左
之道ハ沓懸村、其先三ッ又アリ、
左磯邊(辺)道也、泊り磯邊(辺)御師
世古浄太夫磯邊(辺)
大神宮猿田彦拝礼
廿二日磯邊(辺)より宇治へ四里此出、ハヅレニ
あふむ石出ヌケニナル、夫より五十丁計
至り天之岩戸猿田彦神社、片葉
之杉夫より坂有り、志摩伊勢国境、
志摩ハ稲垣信濃守伊勢神領也、
坂ヲ下り笹原村酒店、夫ヨリ真那
板橋世タメ石ア[リ]、此間小川数多
アリ四十八瀬渡ト云、山本江至り
日高く出立

【読み下し】

山本大夫へ着き、守屋七郎へ面談
致したき旨、用人山本喜兵衛へ申し談ず、
守屋七郎は青柳へ年々配札の
手代、翌十八日てんきよし、二見が
浦参詣、翌十九日てんきよし、
太々御神楽奉納、両宮参宮
滞り無く相済み、
廿日山本太夫出立、あさまが嶽(朝熊ヶ岳)
虚空蔵参詣、同前茶屋内宮や
泊り
廿一日あさまが嶽(朝熊ヶ岳)出立、磯辺へ行き、
登り下りの坂有り、民家之無き五拾丁
程行き、ごち村(五知村)民家有り、其の村はずれ
茶店有り、次に二瀬川を渡り、左
の道は沓懸村、其の先三ツ又あり、
左磯辺道や、泊り磯辺御師
世古浄太夫磯辺
大神宮猿田彦拝礼
廿二日磯辺より宇治へ四里此れ出て、はずれに
あふむ石出てぬけになる、夫より五十丁計
至り天之岩戸猿田彦神社、片葉
の杉夫より坂有り、志摩伊勢国境、
志摩は稲垣信濃守伊勢神領也、
坂を下り笹原村酒店、夫より真那
板橋世ため石あり、此の間小川数多
あり四十八瀬渡と云、山本へ至り
日高く出立